


この一冊が、あなたの表現を世界へ運ぶ。

 REIJINSHA Co., Ltd. <https://www.reijinsha.com>

株式会社 麗人社
〒530-0001
大阪市北区梅田 1-1-3 大阪駅前第3ビル 28F
Tel: 06-6345-9950 Fax: 06-6345-9959

REIJINSHA GALLERY
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-4-6 ニューカワイビル 1F
スペイン支局 / REIJINSHA International SPAIN
C/Manuel Villarán Rodríguez 7, 41120 Gelves Sevilla, España
フランス支局 / REIJINSHA International FRANCE
3 Rue Debrousse 75116 Paris, FRANCE

Art Maison International Vol.3 I

— 平和へ向けた芸術の投影 —

この一冊が、
あなたの表現を世界へ運ぶ。

平和へ向けた芸術の投影

私たちはいま、無数の画像が生まれては消えていく時代を生きています。どれほど心を打つ作品であっても、指先ひとつの動きで、次のイメージへと流されてしまう。だからこそ私たちは、あらためて「紙に刷る」という行為の大切さを問い直しています。

ページをめくる時間、紙の質感と重み、インクの匂いと余白の静けさ。それらは、作品と向き合うための確かな「滞在時間」を生み出します。

『Art Maison International』は、英語とフランス語を組み合わせた名称で、その発行は「芸術の館」という想いを込めた美術書籍のプロジェクトです。アーティスト一人ひとりの表現を、紙である「本」に託し、1996年から毎年国内外へと届けてきました。

制作に費やされた時間、試行錯誤の痕跡、言葉にならない感情の層。それらを一冊に編み、単なる記録ではなく、人が体験する芸術として残すこと。それが、私たちの考える美術書籍の在り方です。

そして第31号のテーマは、「平和へ向けた芸術の投影」。これは国同士の対話が成立しにくく世界が不安定になっている「今」に向けて、芸術がもつ役割を表現しています。そして本誌掲載芸術家たちの名前が刻まれるモニュメントのテーマでもあります。(P.7-8 参照)

この本は、あなたの表現が世界へ向かうための静かな出発点であり、わずかでも世界の平和に役立つことを願って発行します。

Art Maison International Vol.31

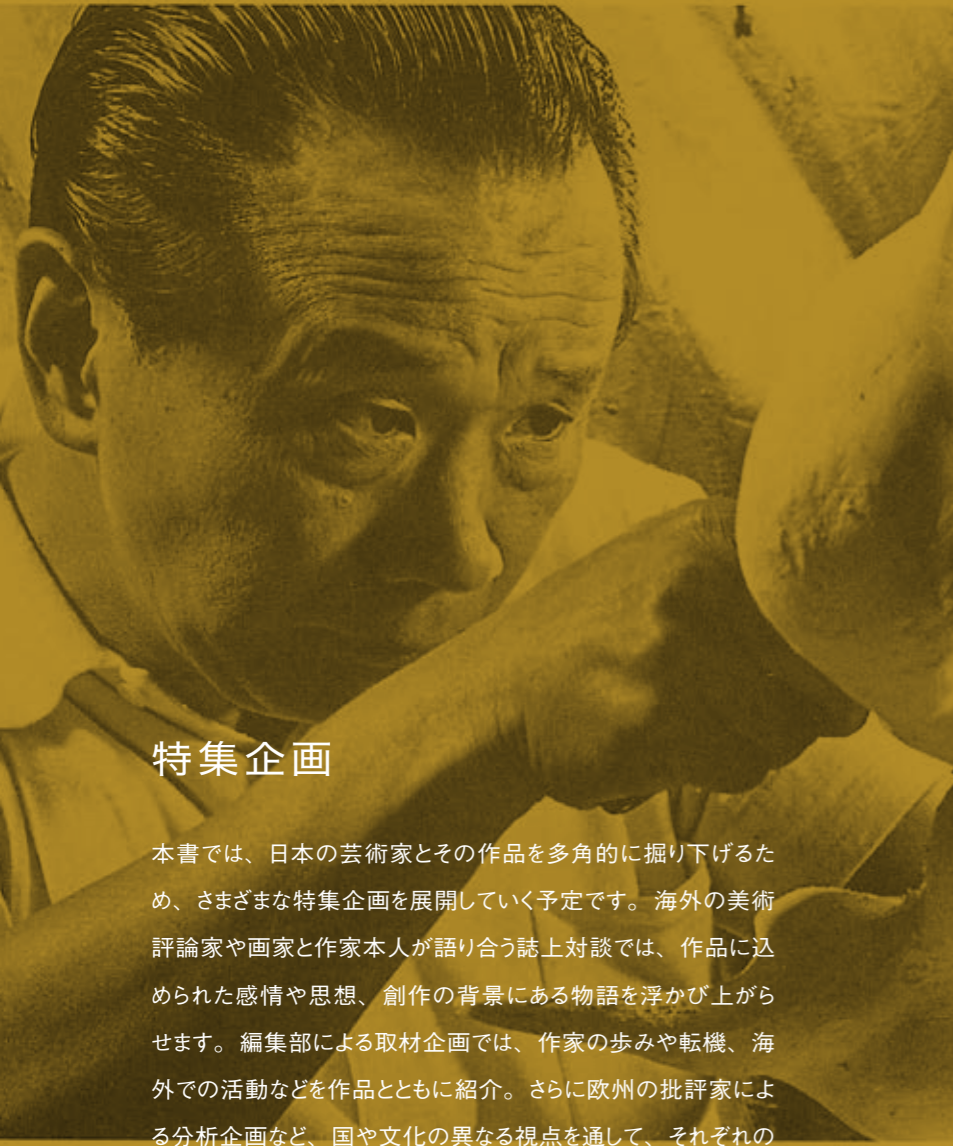
国立装飾美術館友好協会（スペイン）および
バジェ・デ・ロス・スエニョス財団（スペイン）協力図書

【総合監修】A.M.S.C.（国際美術評論家選考委員会）

【発行予定日】2027年3月

【仕様】ハードカバー（上製本）／B4版大型グラフィックサイズ／オールカラー

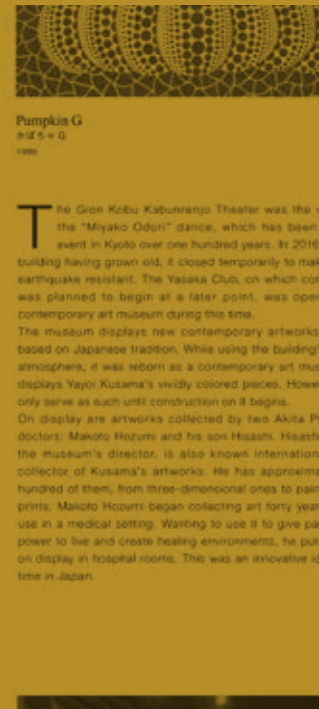
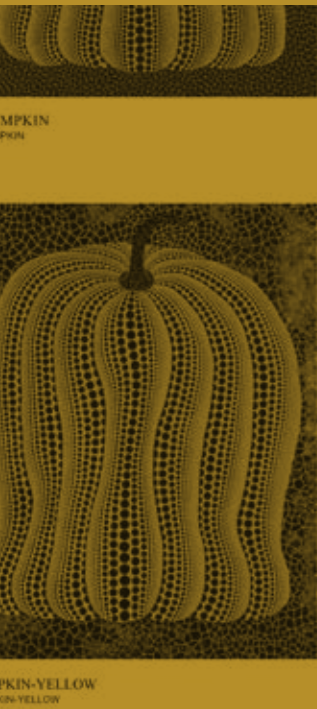
【国内定価】8,800円（本体8,000円＋税）



特集企画

本書では、日本の芸術家とその作品を多角的に掘り下げるため、さまざまな特集企画を展開していく予定です。海外の美術評論家や画家と作家本人が語り合う誌上対談では、作品に込められた感情や思想、創作の背景にある物語を浮かび上げさせます。編集部による取材企画では、作家の歩みや転機、海外での活動などを作品とともに紹介。さらに欧州の批評家による分析企画など、国や文化の異なる視点を通して、それぞれの作品が持つ多層的な魅力を読者に伝えていきます。

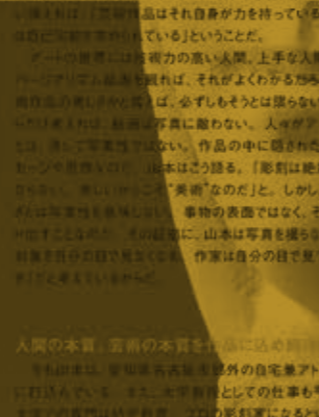
Creating to fight off boredom



何かを作っていた真鍮少年は、この両腕の元でずくと育っていく。ごく普通の人間として一般的な少年時代を過ごしたのだ。高校を卒業した山本は、法を守って美術教師になるために愛知学芸大学に入學した。しかしその才能が彼を一介の教師にはしてくれなかった。彫刻の時間に実技作品を一目見た指導教官が「凄い」と惚ったのだ。「ちゃんば彫刻家になれぞ」というその教官の声に背中を押された彼は、入った大学を退学。東京教育大学の彫刻科に再入學した。これは木村建二から写真彫刻を4年間徹底的に叩き込まれる。その間に漢み、23歳の時には日展初入選。普通の人間である山本の彫刻家への道を本格的に歩み始めることになった。



1981年、山本は東京教育大学で彫刻科の学生として、木村建二と写真彫刻を学ぶ。木村建二は、山本の彫刻家への道を本格的に歩み始めることになった。



山本は、東京教育大学で彫刻科の学生として、木村建二と写真彫刻を学ぶ。木村建二は、山本の彫刻家への道を本格的に歩み始めることになった。

人間の本能、芸術の本能を作品に込めたい。山本は、東京教育大学で彫刻科の学生として、木村建二と写真彫刻を学ぶ。木村建二は、山本の彫刻家への道を本格的に歩み始めることになった。



R. Hiramatsu

平松 礼二

A Painter in Search of a New "in Japanese-Style Painting and is Always Challenging Something"

ローマから帰国して間もない1972年、山本は日展で最初の特選を受賞する。イタリアで学んだことが、日本でも開花したのだ。その後毎日賞会員記念賞や愛知県芸術賞を受賞するなど国内で順調に芸術家としての地歩を固めていったが、それだけに満足する山本ではなかった。1984年、文部省派遣在外研究員として2度目のイタリア留学。ローマのエトルスフ美術館で古代エトルスフ美術、特に建築美術や造幣美術を学ぶことが目的だった。紀元前9世紀に興ったエトルスフ。しかし、その彫刻は古さを感じさせず、むしろモダンでさえある。その理由は、それらの作品が写実ではなく、20世紀にも通じる現代性を有しているからであろう。山本は古代エトルスフ美術から新たなインスピレーションを得て、新しい表現に挑戦。それまで以上に、自分の芸術を貫くものとしていった。



Interviews

誌上対談



Three Perspectives

三つの視点



Art Files

アートファイル



Individual Exhibits

誌上個展



The Possibility of Calligraphy

書の可能性



A.M.S.C. Special Collection

A.M.S.C. スペシャルコレクション

※特集企画には、A.M.S.C. (国際美術評論家選考委員会) のメンバーによる評論解説文が掲載されます。

A.M.S.C. とは

『Art Maison International』は、30年にわたりヨーロッパの美術関係者たちで組織されたA.M.S.C.（国際美術評論家選考委員会）のメンバーによる、現代日本の美術作品についての評論文を掲載してきました。A.M.S.C.のメンバーには、ル・サロン（フランス芸術家協会）歴代の会長や画壇の巨匠をはじめ、スペイン国立プラド美術館発行の書籍に関わる美術評論家や大学教授、国家美術鑑定士や有名ギャラリーのオーナーたちが名を連ねています。A.M.S.C.は、現在そのスペイン本部の代表を務めるアルフォンソ・ゴンサレス＝カレロ氏が1995年、日本美術に関する書籍の構想を立てたことに端を発します。それは現代の日本でどのような美術家が、どのような作品を制作しているのかを世界に向けて解説する書籍でした。そこで、ペドロ・フランシスコ・ガルシア氏をはじめとするスペインの著名な美術関係者6名が集まり、この書籍を実現するための第一歩として、A.M.S.C.を創設したのです。現在もこの組織は一部メンバーの入れ替えを経て、日本美術の出版や展覧会の企画・運営などに対し、さまざまな形で影響力を発揮しています。

Art Maison International Vol.31

A.M.S.C. 執筆予定者

Alfonso González-Calero

アルフォンソ・ゴンサレス＝カレロ



スペイン



美術評論家、A.M.S.C. スペイン本部代表。現代アートギャラリー「ART ROOM」の経営と共に、裁判における美術品の鑑定にも従事。スペイン司法鑑定士協会会員。国際美術評論家協会（AICA）会員。

Alejandra Rodríguez

アレハンドラ・ロドリゲス



スペイン



美術史学博士。東洋と西洋の芸術文化の関係を専門とし、サラゴサ大学にて東洋美術、日本美術について教鞭を執る。カタルーニャ・オープン大学美術学部教授。

Pasquale Di Matteo

パスクアレ・ディ・マッテオ



イタリア



美術評論に携わる他、音楽や時事問題に関する記事も多数発表し、小説家としても活躍。ミラノを中心にイタリア全土で多くの展覧会を企画・主催しており、アート関連のテレビ番組などにも出演している。

Pedro Francisco García

ペドロ・フランシスコ・ガルシア



スペイン



マドリード自治大学美術史博士。スペイン国立プラド美術館、セラルボ美術館など数多くの美術館の共同研究、共著者。美術専門誌に執筆多数。本誌創刊時からの執筆者でもある。

María Dolores Arroyo

マリア・ドロレス・アロージョ



スペイン



マドリード・コンプルテンセ大学教授。美術評論家としても、美術用語辞典および美術誌に多数執筆。文部省依頼の講演会や国際会議の参加も多数。本誌創刊時からの執筆者。国際美術評論家協会（AICA）会員。

Alain Bazard

アラン・バザール



フランス



世界各国で独自の主題を写実的に描き続ける、フランス画壇を代表する画家の一人。ル・サロン（フランス芸術家協会）絵画部門代表。

Winfried Heid

ヴィンフリート・ハイデ



ドイツ



美術評論家、ドイツ・ハイデルベルクの現代アートギャラリー「SIGNUM」のオーナー。画商としてホルスト・ヤンセンをはじめとする世界的に著名な美術家の作品を扱い、出版も手掛ける。

A.M.S.C. スペイン本部 芸術家会員制度

公的機関と連携を取りながら、日本人芸術家の海外における活躍を支援するために A.M.S.C. スペイン本部が創設した制度です。本制度を通じて国際文化交流を含めた「アートリレーションシップの在るべき形」を構築しています。本誌の掲載作家には会員証（ゴールドカード）が発行され、会員証には「国立装飾美術館友好協会」および「バジェ・デ・ロス・スエニョス財団」両団体の会員権が付与されており、右ページの特典や権利が与えられます。

国立装飾美術館

National Museum of Decorative Arts

マドリード中心部に位置する建物と約10,000点におよぶコレクションにより、「歴史的な芸術的記念建造物」に指定されている国立美術館。かつて貴族の邸宅であった同館で、2013年に日本スペイン交流400周年記念展が開催された際、皇太子時代の天皇陛下が開幕式に出席されています。本芸術家会員には入場料の割引など、特典が用意されています。



バジェ・デ・ロス・スエニョス財団

Fundación el Valle de los Sueños

日本とスペインの国際芸術交流の証として、本芸術家会員の名前が刻印された現代アート作品としてのモニュメント。それはバジェ・デ・ロス・スエニョス財団によって作られ、2011年からマドリード州ブエブラ・デ・ラ・シエラの「彫刻の森」で、「アートの真髄へと導く道標（みちしるべ）」として本誌発行のたびに建立され続けています。第31号の掲載者も日本を象徴する芸術家としてそこに名前が刻まれ、スペインの地で永久にその名前を遺す権利が与えられます。



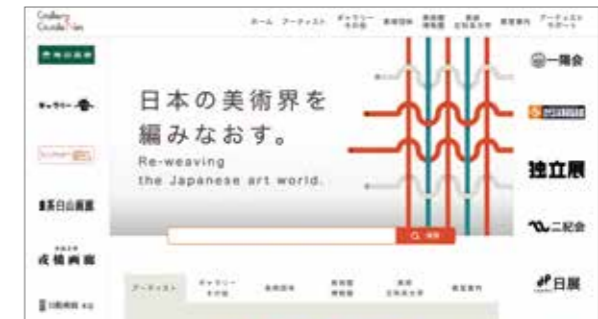


世界へひらく、 アートの現在地

本誌『Art Maison International』は、刊行だけにとどまらず、作品が国内外へと広がり続けるための多面的な発信をおこなってきました。印刷物・WEBなどを通して世界へ。作品が長く、確かに届くための環境を本誌は築いています。

発行と同時にWEBでも掲載作品を紹介

『Art Maison International』Vol.31掲載作品は、月間閲覧数80,000件という高いドメインパワーを持つ美術専門ポータルサイト「ギャラリーガイドネット」で紹介されます。作品についての問い合わせには、弊社が窓口となって対応します。



世界最大の書籍の見本市に出展参加

本誌はこれまでに、ドイツで開催される「フランクフルト・ブックフェア」の日本ブースに参加し、世界中から集まる出版社やメディア関係者に対して本誌のクオリティーをアピールするとともに、プロモーションの場として積極的に活用してきました。



過去日本ブースの様相

グローバルな本誌寄贈先

弊社では本誌を国内外の主要な図書館や美術館、そして芸術系大学などへも寄贈しており、イギリス・大英博物館をはじめ各国機関から礼状をいただいています。(P.11参照)



大英博物館

オルセー美術館

ピカソ美術館

過去の本誌寄贈先一覧（抜粋）

図書館

北海道立図書館／函館市中央図書館／苫小牧市立中央図書館／青森県立図書館／青森市民図書館／八戸市立図書館／弘前市立弘前図書館／岩手県立図書館／宮城県図書館／仙台市民図書館／秋田県立図書館／山形県立図書館／福島県立図書館／福島市立図書館／茨城県立図書館／栃木県立図書館／群馬県立図書館／高崎市立図書館／川口市立中央図書館／所沢市立所沢図書館／千葉県立中央図書館／千葉市中央図書館／流山市立中央図書館／松戸市立中央図書館／市川市立中央図書館／船橋市中央図書館／柏市立図書館／浦安市立中央図書館／国立国会図書館／東京都立中央図書館／台東区立中央図書館／葛飾区立中央図書館／江戸川区立中央図書館／世田谷区立中央図書館／新宿区立中央図書館／杉並区立中央図書館／豊島区立中央図書館／板橋区立中央図書館／武蔵野市立中央図書館／調布市立中央図書館／立川市立中央図書館／八王子市立中央図書館／町田市立中央図書館／神奈川県立図書館／川崎市立川崎図書館／相模原市立図書館／新潟県立図書館／新潟市立中央図書館／長岡市立中央図書館／富山県立図書館／富山市立図書館／石川県立図書館／加賀市立中央図書館／福井県立図書館／山梨県立図書館／県立長野図書館／長野市立長野図書館／岐阜県立図書館／静岡県立中央図書館／浜松市立中央図書館／愛知県図書館／岡崎市立中央図書館／鶴舞中央図書館／東海市立中央図書館／豊田市立中央図書館／三重県立図書館／津市立図書館／滋賀県立図書館／京都府立図書館／京都市立中央図書館／宇治市立中央図書館／大阪府立中央図書館／大阪府立中之島図書館／大阪市立天王寺図書館／大阪市立中央図書館／箕面市立中央図書館／吹田市立中央図書館／高槻市立中央図書館／枚方市立中央図書館／堺市立中央図書館／兵庫県立図書館／神戸市立中央図書館／芦屋市立中央図書館／宝塚市立西図書館／姫路市立城内図書館／奈良県立図書情報館／奈良市立中央図書館／和歌山県立図書館／鳥取県立図書館／島根県立図書館／岡山県立図書館／岡山市立中央図書館／倉敷市立中央図書館／広島県立図書館／広島市立中央図書館／尾道市立中央図書館／三原市立中央図書館／呉市立中央図書館／防府市立防府図書館／山口県立山口図書館／山口市立中央図書館／下関市立中央図書館／徳島市立図書館／徳島県立図書館／香川県立図書館／高松市立中央図書館／愛媛県立図書館／松山市立中央図書館／高知県立図書館／福岡県立図書館／福岡市総合図書館／北九州市立中央図書館／久留米市立中央図書館／佐賀県立図書館／長崎県立長崎図書館／佐世保市立図書館／熊本県立図書館／熊本市立図書館／天草市立中央図書館／大分県立図書館／宮崎県立図書館／鹿児島県立図書館／沖縄県立図書館

美術館および博物館

北海道立近代美術館／北海道立函館美術館／北海道立旭川美術館／北海道立帯広美術館／北海道立釧路芸術館／苫小牧市立美術館／青森県立美術館／青森県近代文学館／宮城県美術館／仙台市博物館／せんだいメディアテーク／秋田県立美術館／山形美術館／福島県立美術館／茨城県近代美術館／笠間日動美術館／栃木県立美術館／群馬県立近代美術館／群馬県立館林美術館／埼玉県立近代美術館／千葉県立美術館／千葉市美術館／東京国立近代美術館／国立新美術館／国立西洋美術館／上野の森美術館／東京都美術館／東京国立博物館／東京藝術大学大学美術館／東京都江戸東京博物館／東京都現代美術館／太田記念美術館／渋谷区立松濤美術館／東京都写真美術館／世田谷美術館／町田市立国際版画美術館／岡本太郎記念館／神奈川県立近代美術館 葉山館／横浜美術館／横須賀美術館／平塚市美術館／新潟県立近代美術館／良寛記念館／石川県立美術館／金沢 21 世紀美術館／福井県立美術館／山梨県立美術館／長野県立美術館・東山魁夷館／松本市美術館／飯田市美術館／静岡県立美術館／浜松市美術館／愛知県美術館／豊田市美術館／愛知県陶磁資料館／一宮市三岸節子記念美術館／三重県立美術館／MIHO MUSEUM／京都市京セラ美術館／アサヒビール大山崎山荘美術館／国立国際美術館／大阪市立東洋陶磁美術館／絹谷幸二 天空美術館／大阪市立美術館／山王美術館／大阪芸術大学博物館／兵庫県立美術館／西宮市大谷記念美術館／伊丹市立美術館／姫路市立美術館／松伯美術館／和歌山県立近代美術館／田辺市立美術館／島根県立美術館／足立美術館／益田市立雪舟の郷記念館／島根県立石見美術館／岡山県立美術館／倉敷市立美術館／井原市立平櫛田中美術館／広島県立美術館／山口県立美術館／下関市立美術館／徳島県立近代美術館／香川県立ミュージアム／高松市美術館／高知県立美術館／福岡県立美術館／北九州市立美術館・本館／佐賀県立美術館／熊本県立美術館本館／熊本市現代美術館／大分県立美術館／大分市美術館／宮崎県立美術館／沖縄県立博物館・美術館／ニューヨーク近代美術館（アメリカ）／クリーブランド美術館（アメリカ）／ボストン美術館（アメリカ）／メトロポリタン美術館（アメリカ）／シカゴ美術館（アメリカ）／国立装飾美術館（スペイン）／ブラド美術館（スペイン）／サラゴサ美術館（スペイン）／ルーヴル美術館（フランス）／オルセー美術館（フランス）／パリ市立近代美術館（フランス）／ピカソ美術館（フランス）／ウフィツィ美術館（イタリア）／大英博物館（イギリス）／国立エルミタージュ美術館（ロシア）／台北市立美術館（台湾）

大学および附属図書館、美術系教育機関

青森大学附属図書館本館／青森公立大学図書館／弘前大学附属図書館／東北芸術工科大学／千葉大学附属図書館／東京藝術大学／東京芸術大学附属図書館／東京学芸大学附属図書館／武蔵野美術大学美術館・図書館／多摩美術大学図書館／青山学院資料センター／東京工芸大学／女子美術大学／桜美林大学／長岡造形大学附属図書館／上越教育大学附属図書館／新潟大学附属中央図書館／金沢美術工芸大学／京都芸術大学／京都精華大学／嵯峨美術大学／京都市立芸術大学附属図書館／大阪芸術大学図書館／四国大学附属図書館／ハーバード大学美術図書館（アメリカ）／マサチューセッツ工科大学図書館（アメリカ）／プリンストン大学図書館（アメリカ）／カリフォルニア大学ロサンゼルス校美術図書館（アメリカ）／パリ国立高等美術学校（フランス）／パリ南大学図書館（フランス）／アカデミー・ポール・ロワイヤル（フランス）／サラゴサ大学人文科学図書館（スペイン）／グラナダ大学美術学部（スペイン）／セビリアアート&デザイン高等専門学校（スペイン）／国際交流基金マドリッド日本文化センター（スペイン）／ケンブリッジ大学図書館（イギリス）／ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ図書館（イギリス）／コペンハーゲン大学 英語学図書館（デンマーク）／ハイデルベルク大学図書館（ドイツ）／ベトナム国立美術大学（ベトナム）／中国美术学院（中国）

その他

スペイン美術評論家協会／パリ美術評論家協会／国際美術評論家協会／台湾画廊協会



1996 Vol.1



日本美術界の現況とそのビジネス
元永定正／白髪一雄 他

稲垣伯堂による水墨画のデモン
ストレーション、巨匠・雪舟等楊な
ど日本の伝統文化を紹介する記
事を掲載。

1998 Vol.2



江戸の街を往来した物売りたち
風俗画家／三谷一馬 他

掲載作品を大幅に増やし、現代
の日本美術の多様性を示した。
質の高い芸術作品を世界に広く
紹介するというスタイルを確立。

1999 Vol.3



芝田米三「描きつづける、
それは本質を見出すこと」 他

京都の洋画家、故・芝田米三の
特集、さらに岡本太郎記念館の
開館を記念し、岡本太郎の追悼
特集も掲載した。

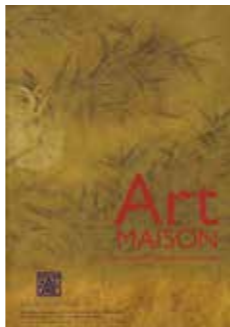
2000 Vol.4



秋野不矩「描かないとつまらない
から描くのだ」 他

巻頭では没後60周年となる日
本画家・村上華岳の回顧展の
レビューと共に彼の画業を紹
介した。

2001 Vol.5



安井曾太郎と
湯河原に集まった一門展 他

アルフォンソ・ゴンサレス＝カレロ
氏の選抜によるスペイン側作家と
日本側作家とのコラボレーション
企画を誌面で実現させた。

2002 Vol.6



画業80年 片岡球子展
奥谷博「黙示録」 他

美を心で捉えるという片岡球子な
らではの感性、洋画作品にも当
てはまる表現的特質が、この号の
掲載作品にも如実に現れた。

2003 Vol.7



雪舟没後500年特別展
絹谷幸二「沸き立つ色彩」 他

この号が編集された2002年は、
雪舟の没後500年。巻頭特集で
は東京と京都で開かれた彼の回
顧展を取り上げている。

2004 Vol.8



円山応挙特別展
「具体」回顧特集 他

世界的に有名な前衛美術団体
である具体美術協会の展覧会を取
り上げ、時代を変革した日本美術
のエポックを振り返った。

2005 Vol.9



日本画・美の系譜を辿る
「上村松園・松堂・淳之展」 他

美人画で知られる日本画家・上村
松園を中心に、その長男・松堂、
孫・淳之を取り上げ、三代続く美
の系譜を辿った。

2006 Vol.10



ブラド美術館財団と
ブラド美術館 他

創刊10年を迎えた「Art Maison
International」。10年の集大成と
なったのがこの号である。

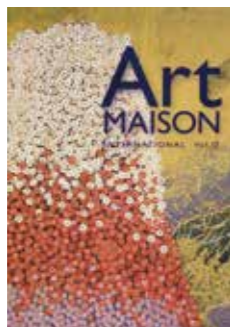
2007 Vol.11



書の国宝 墨蹟
雄大・純朴の書 米山 他

日本書芸院創立60周年を記念し
た展覧会「書の国宝 墨蹟」「雄
大・純朴の書 米山」「2006年日本
書芸院展役員展」を紹介する、
書に焦点を当てた一冊。

2008 Vol.12



ギメ東洋美術館所蔵 浮世絵名品展
第51回現代書道二十人展 他

フランス国立ギメ東洋美術館所
蔵の浮世絵コレクションが展覧さ
れた「ギメ東洋美術館所蔵浮世
絵名品展」を特集。

2009 Vol.13



地球、平和、そして美術
第52回現代書道二十人展 他

初めて書籍のテーマを定めた一
冊。「地球、平和、そして美術」と
いうテーマの下、地球と平和に対
するメッセージが込められた、さま
ざまなジャンルの作品を掲載した。

2010 Vol.14



A.M.S.C.創設15周年特別プロジェクト
—「Art Maison Japon」展 他

A.M.S.C.創設15周年を記念し、
「Art Maison International」
Vol.14スペシャルエディション(特
別編集)として二冊に分けて制
作された。

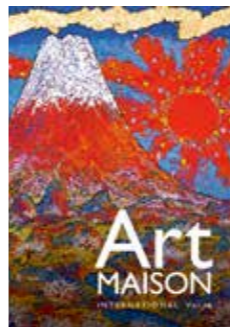
2011 Vol.15



アートメゾン 15年の歩み
ポール・アンビエユ追悼特集 他

A.M.S.C.のメンバーであり、フラン
ス芸術家協会会長、テラー財
団会長を務めたポール・アンビ
エユ氏の追悼記念号。

2012 Vol.16



A.M.S.C.「わ」アートプロジェクト
彫刻家・山本真輔特集 他

「わ・和・輪」をテーマに、展覧
会「アートメゾン・ビエンナーレ
2011」への出展と本誌の掲載を
合わせたプロジェクトとして実施。

2013 Vol.17



芸術家の軌跡
日本画家・木村圭吾特集 他

各国の間でさまざまな問題が発生
したこの年、この号に掲載された
作品に込められた希望が、言葉
や国境の壁を越えて伝えられた。

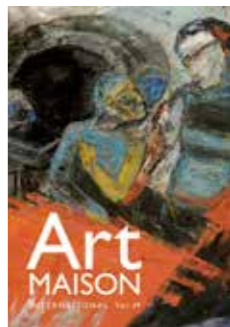
2014 Vol.18



日本スペイン交流400周年事業
芸術家の軌跡 鶴田一郎 他

展覧会「アートメゾン・ビエン
ナーレ2013」を含む「A.M.S.C.
2013-2014 アートプロジェクト」の
一環として発行された。

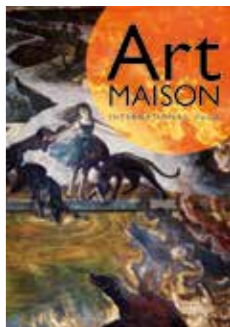
2015 Vol.19



日本を代表する画廊が推薦する
画家たち 奥谷博／馬越陽子 他

「A.M.S.C.創設20周年記念
号」。日本を代表する画廊が推
薦する現存画家たちの作品が
多数掲載された。

2016 Vol.20



クリスチャン・ピエ追悼特集
アートメゾン 20年の歩み 他

創刊20周年を記念し、過去の歩
みを振り返る一冊。フランス芸術
家協会会長であったクリスチャン
・ピエ氏の追悼特集も掲載した。

2017 Vol.21



日本美術史を飾った先人たち
富岡鉄斎／菱田春草／
横山大観／高橋由一 他

巻頭特集では、近代以降に活躍
した日本画や洋画の歴史に残る、
錚々たる巨匠たちを特集した。

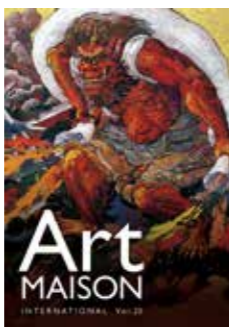
2018 Vol.22



2017-2018 A.M.S.C.
プロジェクト「ARTE de JAPON」
台日藝術博覧会特集 他

「アートメゾン・ビエンナーレ2017」
を大きく取り上げた、この号の表紙
を飾ったのは、同展に出品された
歌川広重の複製作品だった。

2019 Vol.23



ピックアップ 日本の美術館
絹谷幸二／草間彌生
特集:アラン・バザール 他

大阪の「絹谷幸二 天空美術
館」、草間彌生作品を公開する京
都の「フォーエバー現代美術館
祇園・京都」(2019年閉館)とい
う二つの美術館を特集した。

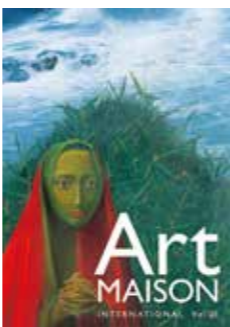
2020 Vol.24



特集:平成美術
平成に活躍した芸術家たちの
足跡／平成時代の年表 他

元号が令和となって初めて発行
されたVol.24は、約30年間の
「平成美術」を振り返る一冊と
し、日本美術の未来を示した。

2021 Vol.25



アートメゾン25年の歩み
日本美術の偉大な先駆者
雪舟生誕600年 他

25号を記念し、「アートメゾン・イ
ンターナショナル 25年の歩み」
と題して1996年の創刊からこれ
までを振り返った。

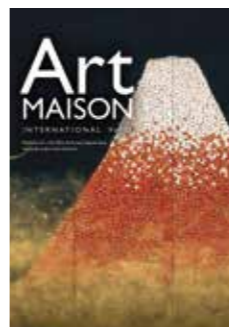
2022 Vol.26



芸術の都パリを魅了した
日本人アーティスト
画家・赤木曠児郎 他

ル・サロンで金賞を受賞するな
どパリで活躍した日本人画家・
赤木曠児郎の逝去を悼み、彼
の作品と共に足跡を辿った。

2023 Vol.27



株式会社 麗人社 30年の歴史
～アートにあふれる世界を～
三つの視点 他

弊社の歴史と共に、A.M.S.C.ス
ペイン本部メンバーで、本書の
評論執筆者でもあったカルメン
・アラゴン氏を偲ぶ特集を掲載。

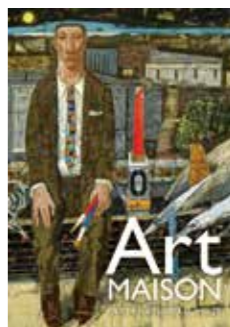
2024 Vol.28



「アートは世界中で人の心を救う」
誌上対談／アトリエを訪ねて／
書の可能性 他

2020年からのコロナ禍で中断し
ていた「誌上対談」が再開。
書作品の特集「書の可能性」
はこの号から始まった。

2025 Vol.29



日本美術の礎を築いた画家たち
誌上対談／書の可能性／
三つの視点 他

巻頭では、雪舟や伊藤若冲、
青木繁、安井曾太郎など、日
本美術の基礎を築き、今も多大
な影響を及ぼしている画家22
人とその作品を特集した。

2026 Vol.30



巻頭特集:国立装飾美術館／
「書の可能性」 特別企画:サラ
ゴサ美術館 他

スペイン国内14カ所にある国立
美術館・博物館の一つ「国立
装飾美術館」と、スペインで最
も古い美術施設の「サラゴサ
美術館」を特集した。